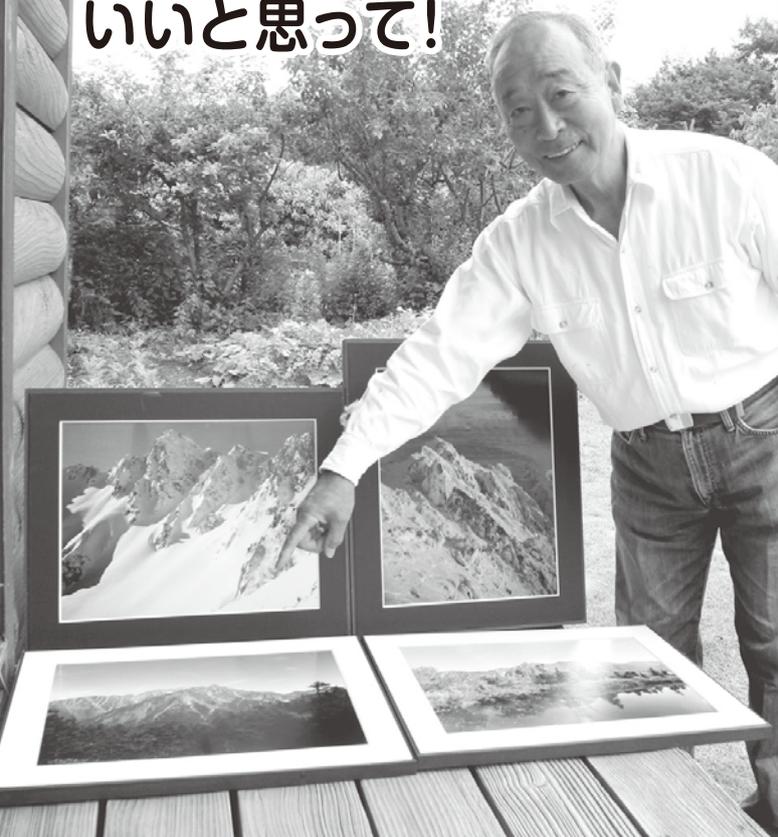


カメラ片手に遊び回るのに  
いいと思って!



四賀ガルテナーの楽しみ

## ガルテンで何してん!?

### 50代で本格的に始めた 山岳写真に夢中

坊主山クラインガルテン103号 北村正親さん

千葉県豊里市から四賀に通って5年目になる北村正親さん(69)は、坊主山のガルテンを拠点に、撮影旅行に飛び回っています。1

カ月のうち10日から2週間くらい滞在し、佐久市に住む弟さんと一緒に好きな山登りを兼ねて山岳写真の

腕を磨いています。松茸山荘の別館・東山館で、北村さんの写真を見かけた方もあるかもしれませんね。

「実は私の実家は、信州の信濃町です。50歳ころから本格的に写真を始めましたが、定年になったら北アルプスの見えるところで過

ごしたいなあ、と考えていたので」と話す北村さん。長年、新幹線の建設工事などに携わって家族とともに転勤を重ねてきました。北アルプスと対面できる別荘暮らしを夢描き、小川村の民家や美麻村(現在は大田市)などを探し求めたどり着いたのが、四賀クラインガルテンだったそうです。

#### 奥様も魅了される有機野菜

「遊び回るのが一番の目的ですから、野菜作りは、ほかの皆さんに比べたら恥ずかしい程度ですよ」と繰り返して謙遜する北村さん。「久しぶりに来てみたら、ジャガイモがアブラムシにすっかりやられていて、この通り」と葉っぱがリースのように穴だらけになったジャガイモに肩を落とします。カメラを手に、四季の山に魅了されて出掛けることが優先で、害虫退治に手のかかる有機栽培の畑は二の次だから、と話します。

とはいえ、北村さんの畑にはシシトウ、カボチャ、夕顔、キュウリ、夏ダイコン、サツマイモ、ニンジンなど20種類もの野菜が育っています。さらに前のガルテナーの置き土産でもあるハーブや花々が、月ごとに咲

き替わって庭に彩りを添えています。

「家内は今も仕事を持っていて、休日には趣味のダンスに通っているために、ここへ来る回数は少ないですが、ガルテンで採れた野菜は、おいしい、おいしい」と言いつて喜びますね。農薬を使わないというだけでも、気分的にも違うと思う。空気が水もきれいだから、さらに美味しく感じるのでは?」

毎年夏には、坊主山の仲間で見望者を募って北アルプスに登るツアーの案内役を務めています。昨年は白馬乗鞍の天狗原、昨年は乗鞍岳、今年は7月25日に白馬の遠見山へ登ります。「せっかくなので登れなくても山麓まで歩いて行くことは良い思い出になるみたいで、皆さん喜んでくれますよ!」

#### 庭から燕岳、常念を眺める幸せ

「朝起きてね、山がきれいに見える時は、よしっ」と出かけて行くんですよ。ここからは燕岳、大天井、常念岳、餓鬼岳なども見えます。冬は今年も白馬でスキーをしますよ」と峰々を仰いで微笑む北村さんです。